



「食」でつながる プラットフォームの形成について

令和5年度 地域づくり加速化事業（全国研修）

地域活性化伝道師/
一般社団法人全国食支援活動協力会
専務理事 平野覚治

CONTENTS



目次

- 1 食支援活動の課題
- 2 食支援プラットフォームの概要・意義
- 3 活用案・期待される効果
- 4 形成・醸成の実践モデル
- 5 具体的なモデル事例
 - ①食支援プラットフォーム形成事例
 - ②広域ネットワーク活用事例
 - ③実践事例
- 6 振り返り・まとめ

活動の課題と、行政や社協による活動支援

活動団体が受けてたい支援	順位	行政・社協が提供している支援
資金確保	1位	資金確保
担い手の募集	2位	行政・社協、地域・住民団体からの活動理解の促進
活動拠点の備品に関する支援	3位	利用者募集の支援

出典：厚生労働省 令和5年度老人保健健康増進等事業
「『食』を通じた高齢者の居場所づくり活動への支援プラットフォームの形成に関するモデル事業」

本会が2023年度に実施したアンケートより、活動団体は**担い手の募集**や**活動拠点の整備**、**リーダーの育成**、**拠点の確保の支援**を希望している一方で、こうした支援の提供は**行政・社協**で**あまり取り組まれていない傾向がある**ことが分かった。



不足している支援を新しく自治体ごとに整備するのではなく、広域的に、かつ専門領域で活動する団体から必要な資源（リソース）を収集することで、行政・社協等が苦手とすることを補完できる

「食支援プラットフォームの形成」

を目指す

背景：

地域で実施される「食支援活動」は、孤独・孤立を予防し互助を促すとともに生活支援、介護予防の効果をもち、その価値には多面性がある。

こども食堂や多世代型地域食堂が広がりを見せる一方で、高齢者を対象とした活動は担い手不足や継続のためのリソースの不足を課題としており、多くの地域で活動継続が危ぶまれる状況にある。

生活支援体制整備が期待される協議体においても、活用する資源の多くが地域内にとどまり、多様なアイデアが活動に生かされにくい現状である。

解決方策：

支え合いの活動創出に関わる行政所管・社協・生活支援コーディネーター等がその力を発揮して活動を活性化していくためには、多様な分野からの資源調達を図っていく必要がある。

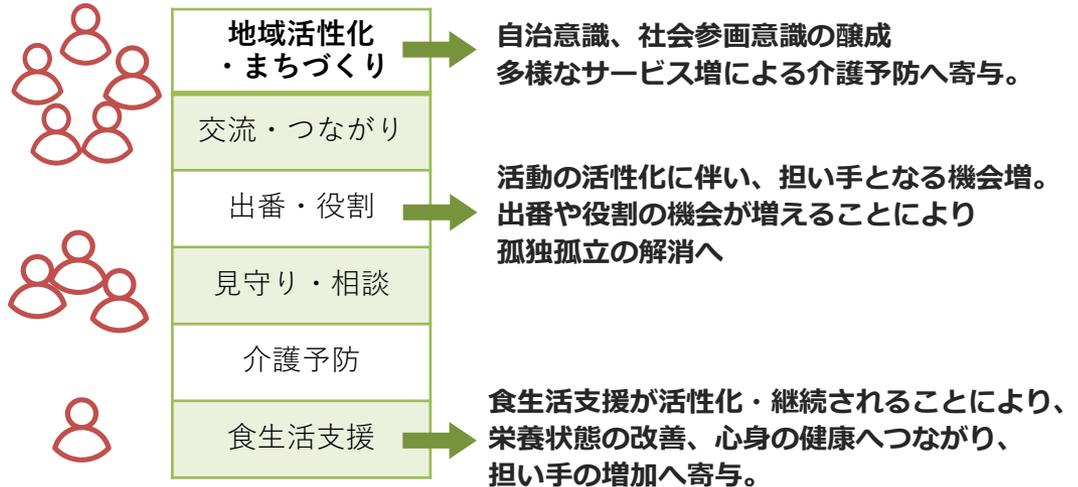
福祉/保健/まちづくり等の行政関連所管間の価値観の共有や、食支援活動団体同士の連携の促進、さらに域外や他分野のリソースとのつながりを促すしくみの構築＝プラットフォーム構築が課題解決策のひとつと考える。

特に、企業や協同組合、商工会など福祉分野に限らない多様な機関・団体や、地域外の広域ネットワークとの有機的な連携がカギとなると考える。

■食支援プラットフォーム（仮称）とは：

「食支援活動」（配食サービス・会食会・地域食堂・こども食堂・フードパントリー、食育活動など）の創出と地域展開に向けた環境整備のために、人・場・モノ/資金、情報等の資源の開拓・活用や循環を目的とした機能をもつ会議体（協議体）を「食支援プラットフォーム」と位置づける。

■「食支援プラットフォーム」が解決を目指す社会課題の射程：



「食支援プラットフォーム」は、
孤独・孤立を予防し互助を促す
「食支援活動」を創出し支える機能をもつ

地域・食支援団体の変化

ノウハウの伝授・支援者の派遣を通じて居場所づくりの担い手発掘



活動の継続・安定/
新たな活動への展開

安定的な食材の確保



寄贈マッチング支援を通して多世代型地域食堂で活動するための食材確保

新しい活動の創出



地域課題に対する新たな活動の創出/活動空白地域における展開

食支援プラットフォーム

域内の団体・ネットワーク



構成団体(イメージ):

自治体関連所管、生活支援コーディネーター、社協CSW、活動団体、地縁組織、民生児童委員、中間支援団体、商工会、企業、生協、農協等

他自治体、福祉分野に限らない機関・団体、広域ネットワーク等
※

※企業、県レベルの中間支援、テーマ別の全国ネットワーク(食支援、移動支援、学習支援、若者支援等)

構成団体等との連携・協力による他地域の人脈やノウハウの提供



期待される効果

行政

財源に因らず、部署を横断した地域課題の解決に向けた協働の促進
他地域の行政や民間とつながり創出
活用できるリソースの拡充

社会福祉協議会

世代を問わず、多様な地域課題に取り組む団体や活動がつながることで福祉ニーズを充足

企業

地域課題を知り、自社の強みを生かした地域づくりへの参加
商材、人的資源、ノウハウ等の貢献

「食支援プラットフォーム」で孤独・孤立を予防し互助を促す「食支援活動」を創出し支える

立ち上げを行う機関



行政・社協の所管、中間支援機関、地域団体の連絡組織等



課題の把握

会議体(協議体)の設置

課題の共有

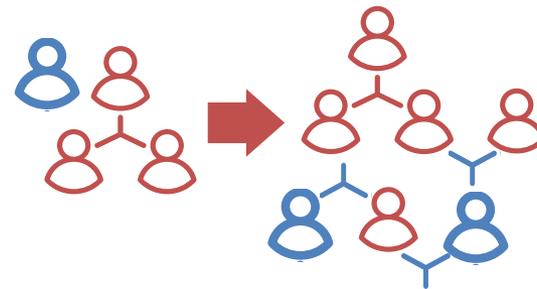
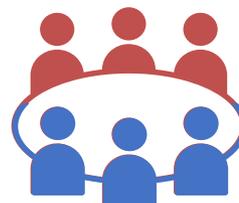
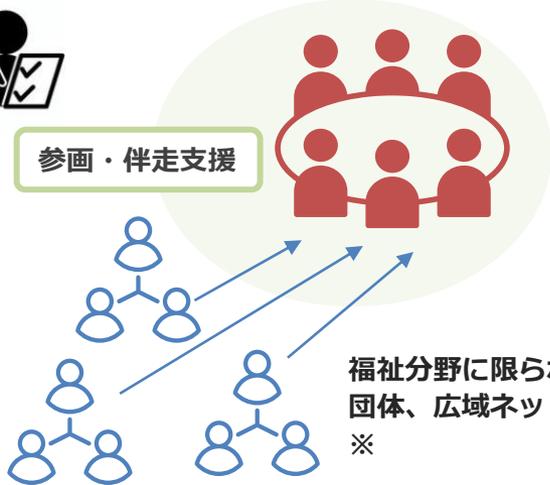
資源の開拓・活用と循環

活動団体へのアンケートや
ヒアリング調査の実施
行政・社協の福祉計画を確認

お互いの情報交換
(現場視察含む)
地域資源の可視化を試みる

解決方法の検討

資源の開拓・活用と循環を
推進するために、ステークホルダーと
なりうる多様な関係者に
参画を呼び掛け、連絡会・イベント・
会議等を通して情報共有を図る。



※企業、県レベルの中間支援、
テーマ別の全国ネットワーク
(食支援、移動支援、学習支援、若者支援等)

福祉分野に限らない機関・
団体、広域ネットワーク等
※



プラットフォームの
形成から醸成へ

POINT 域内外のステークホルダーが協力関係を構築し
既存資産の運用や資源循環を促す



●青森県五所川原市

県社協や全国の団体と通じた宅食支援による参加型の仕組みづくりと拡充



■ 五所川原市社会福祉協議会



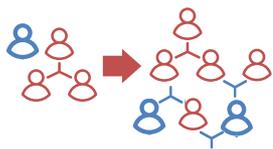
■ 域内の団体・ネットワーク

企業・地域の農家：食品
寄付ボランティア人材の提供
社会福祉法人：市内の受取拠点の提供



■ 域外のリソース

青森県社会福祉協議会：食品・助成情報等の提供
こども宅食応援団：支援スキーム、食品の提供
生活協同組合コープあおもり：食品の提供
JA青森中央会：食品の提供



■ プラットフォーム拡充のため研修会を実施



「色々な取り組みを更に組み合わせることで、
もっと効果的に事業を展開していける可能性を感じた。」
と思うきっかけになった。

自分達で何かできることを考えて行動してみる事が
大事なのではないかと思いました。



職・種別

自治体職員	10名
社協職員	12名
民生委員	5名
活動団体	4名
アクティブシニアボラン ティア	8名
民間企業	5名
在宅介護支援センター	3名
食生活改善推進員	1名
栄養士	1名
教員	2名
市長・秘書等	4名



●北九州市

地域内リソースの見える化と連携
食を通じたプラットフォームの形成、域外との連携



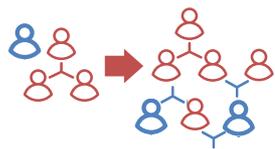
■北九州市
地域市保健福祉局地域福祉推進課



■域内の団体・ネットワーク
子ども食堂ネットワーク北九州
北九州市社会福祉協議会
フードバンク北九州ライフアゲイン
ヘルスマイト北九州



■域外のリソース
全国食支援活動協力会、民間企業：食品の寄付



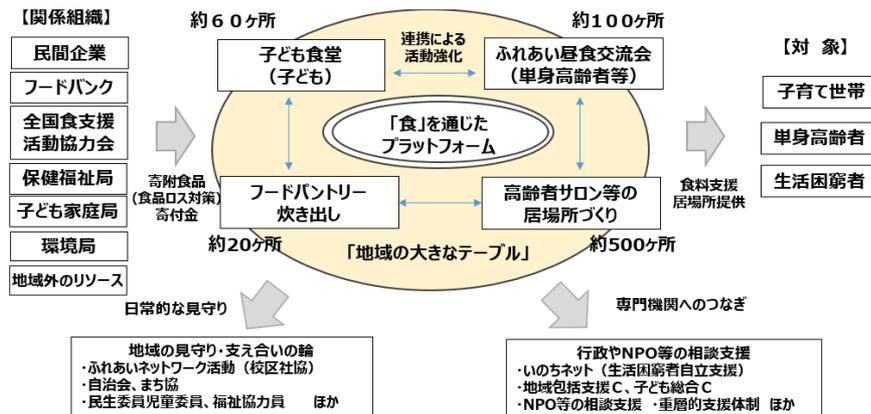
■プラットフォーム拡充のため
研修会を実施

「食」にまつわる関係各課・地域のステークホルダーとともに協議体を設置。
アンケート調査結果の共有を行い、課題解決に向けた研修会を開催した。

食を通じたプラットフォームのイメージ



11/17 北九州市研修会 明石様資料より



1/22 全国研修会 明石様資料より



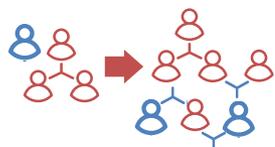
●鳥取県鳥取市（麒麟のまち圏域）

重層的な相談支援とサービスの見える化

近隣自治体を含む広域連携にて、ロジハブ機能や支援ネットワークの共有と発展



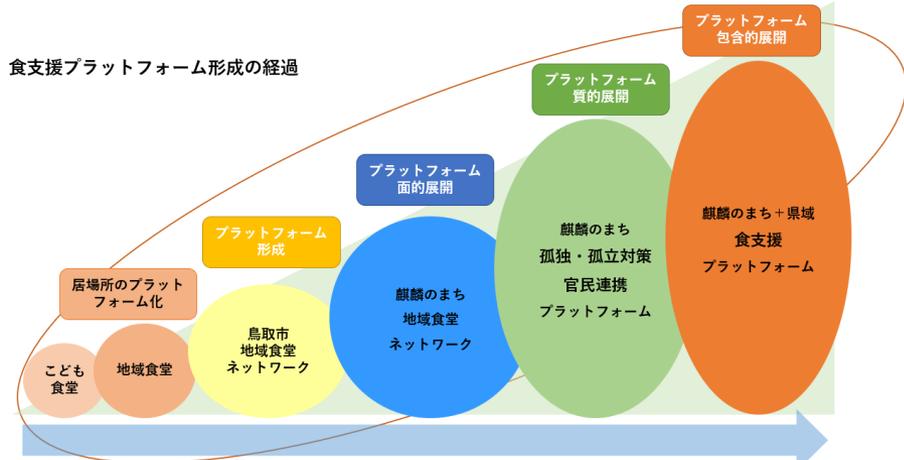
■麒麟のまち地域食堂ネットワーク・麒麟のまち 孤独・孤立対策官民連携プラットフォーム等



■ 県域・圏域を含む食支援プラットフォームへの発展

市や圏域に留まらず、「食」にまつわる関係各課・ステークホルダーとともにプラットフォームを立ち上げた。課題解決に向けた情報交換会・シンポジウム等を開催。

食支援プラットフォーム形成へ



名称	麒麟のまち+県域食支援プラットフォーム
開始時期	2024年10月
形態	食支援推進プラットフォームの形成
意義	<ul style="list-style-type: none"> ・広域連携の拡大と周辺県への展開見込み ・ロジ、ハブ拠点をフードドライブの常設拠点として活用 ・大学、物流事業者を含めたプラットフォーム形成
関係者構成団体	構成団体 <ul style="list-style-type: none"> ・大学 ・鳥取県3課 ・県社協 ・県生協 ・県隣協 ・NPO法人2 ・物流事業者 ・県子どもの居場所ネットワーク ・地域食堂ネットワーク ・中央人権福祉センター



● 寄贈食品配布システムの活用

食品/物品等支援等の調達スキームの提供

「ミールズ・オン・ホイールズ ロジシステム (MOWLS)」とは？

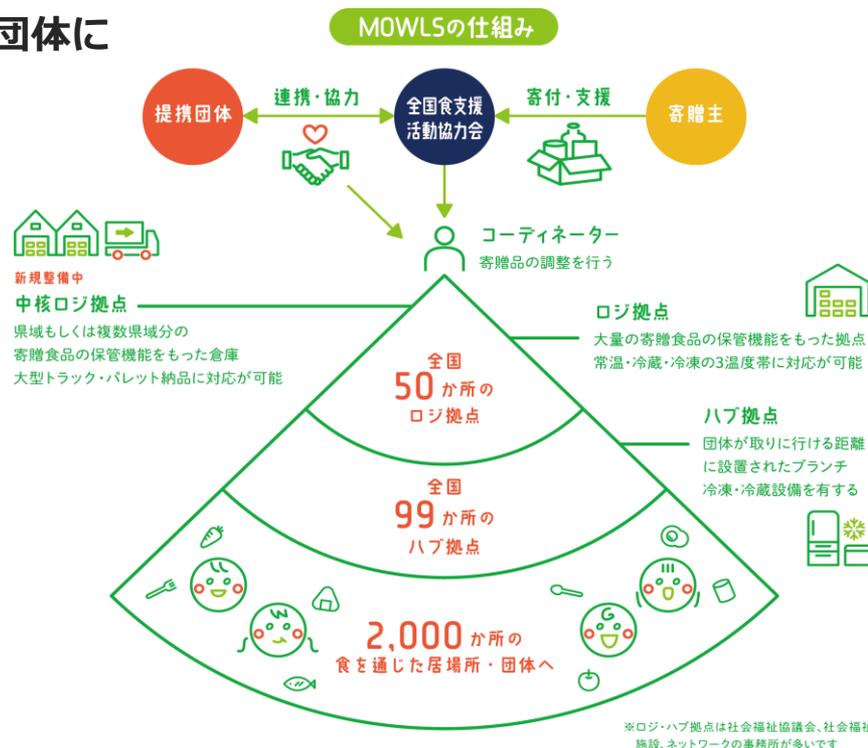
■ 「MOWLS」は、食を通じた居場所・団体に向けた食支援のための物流システム (WEBシステム) です

どんなことができるの？

寄贈いただいた食品等を提携拠点経由で食を通じた居場所・団体とマッチングしトレーサビリティを確保しながら届けます

これまでの実績 (2022年度時点)

連携団体エリア **33** 都道府県
 食品提供量 **355** トン
 食品寄贈団体数 **37** 団体





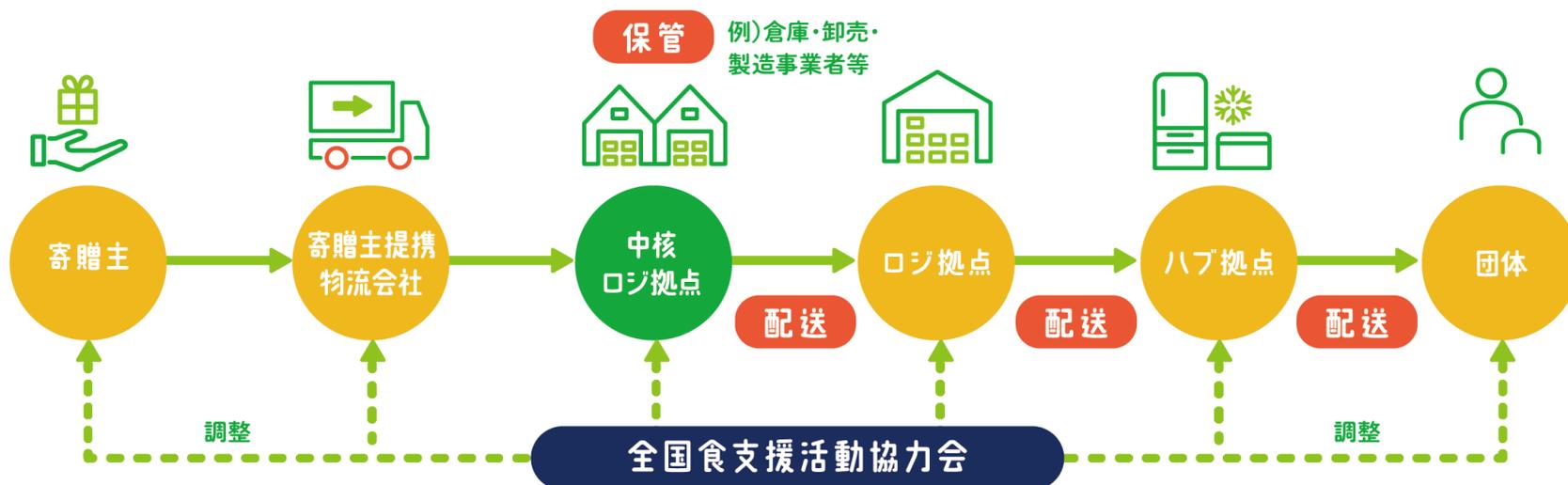
事例

● 寄贈食品配布システムの活用

食品/物品等支援等の調達スキームの提供

「ミールズ・オン・ホイールズ ロジシステム (MOWLS)」とは？

全国各地 **50**か所のロジ拠点～**99**か所のハブ拠点を經由し、
約**2,000**か所の食を通じた居場所・団体へ寄贈品をお届けしています





● 「食」をキーワードにした
地域の課題共有・協議の場づくり

事例

全国へ寄贈食品を届ける仕組みづくり

「ミールズ・オン・ホイールズ ロジシステム説明会」(通称ロジハブ説明会)

●開催目的・趣旨

子どもから高齢者まで、全国の食を通し等「居場所」に集うすべての人が食事を得られる環境づくりを目的に開催。全国に大規模な寄贈品受入体制を整えることで地域間の格差を是正し、いずれの地域でも食が循環することを目指します。

●主な対象

- ・物流・倉庫事業者、食品製造業者など、倉庫・物流の提供可能性が考えられる企業
- ・社会福祉法人など施設を運営されている法人
- ・資金的な支援を検討いただける企業

開催事例

- ✓ 誰もが参加できる地域の居場所が継続できるよう、課題解決に向け協議する場として静岡で開催
- ✓ そこで出会った方々がもとなり、後日「沼津市の食支援ネットワーク検討会(拠点・配送編)～スモールステップでやれることからやってみよう!～」を開催、実際に実証実験を重ねながら食のネットワーク形成の動きが促進されています。

●プログラム構成

- ・「ミールズ・オン・ホイールズ ロジシステム」と連携の事例
- ・静岡県内における食支援の現状と課題について
- ・沼津市における食のネットワークの現状と今後の展開
- ・施策の動向



ロジハブ説明会@静岡



● 「食」をキーワードにした
地域の課題共有・協議の場づくり
～ステークホルダーとの共催事例～

事例

食をキーワードとしたネットワーク形成

「食でつながるフェスタ」

●開催目的・趣旨

地域の多様なセクターで実行委員会を形成し開催。
食という共通項でつながる多様な機関を横串にさし、
寄贈の地域資源の可視化・ネットワーク化を図ります。

●主な対象

地域の課題解決に向け一緒に取り組む
ネットワークをつくるにあたり、
「開催目的の明確化」「実行委員会・
協力団体の構成」が重要になります

開催事例

- ✓ 「食」の生産知として北海道が抱える課題とこれからの社会を担う子どもたちの「食」の問題について、一緒に考える場として開催
- ✓ 函館市長のご挨拶に始まり、農業タレントでもある森崎氏による基調講演や「こども食堂生みの親」近藤氏を含めたパネルディスカッション等を実施。保管・配送の無償支援を行う事業者とつながる等、ネットワーク形成の動きが促進されています。

●プログラム構成

- ・基調講演「生きることは食べること」
- ・パネルディスカッション「こども食堂×フードバンク×食育から、子どもたちの未来を支える仕組みを創る」



食フェスタin函館

振り返り・まとめ

1

「食支援プラットフォーム」は、孤独・孤立を予防し
互助を促す「食支援活動」を創出し支える機能をもつ

2

「食支援プラットフォーム」は、関係するステークホルダーに
とってwin-winとなる効果を発揮する

3

「食支援プラットフォーム」をきっかけに、
地域内外のステークホルダーが協力関係を構築し既存資産の
運用や資源循環を促す

4

「食」をキーワードにエリアやテーマを横断することで
多様なリソースが集い、課題解決へのアプローチが増える

食を通じたコミュニティを生み出しています。



配食サービス

利用者の自宅まで食事を配達し、安否確認を行います。家事の負担軽減や栄養バランスの改善を目的としています。



コミュニティカフェ

来たい人が自由に入りできて、食事のできる地域の居場所。コミュニティレストランとなっているところもあります。



会食会

集まって一緒に食事と会話を楽しむスタイル。住民が主体的に食を通じたコミュニケーションの場をつくっています。



子ども食堂

孤食の解消、共食体験の提供、学習支援等テーマは様々。食を通して地域で子どもの成長を見守る取り組みです。



料理教室

高齢者や男性を対象にした料理教室。介護予防の観点から元気なうちに調理技術と知識を身につけることが狙いです。



食育活動

食文化の継承や介護予防、子どもの健やかな成長に向けて、食べ物と栄養についての知識を深める取り組みです。

